「外財根元記」に就いて

安藤　隆

木浦鉱山が岡藩直営の旧幕時代、世襲的に同鉱山組頭の職に就いたと考えられる植木武平治所蔵の旧記の中に左のような文書がある。

「此度、大平山に新に錫山を開発せられ、尚吹方等工夫は全く神恵ならずんば出来すべけんや、諸事銀山の古例に任せらるべく、自今貴殿、銀山の山先たるべし。

これに依つて、往古、宝山の起れる例法書記令相伝うるもの也

（一五九八）
慶長三年正月吉日

河野彈正大輔廿九代孫
河野大蔵之亟金次

佐藤大膳殿

内々申渡　武平治」

右の文書中「往古、宝山の起れる例法、書記令」が即ち此此の「外財根元記」であると断ずることは種々の点から考えてほゞ間違いないのではあるまいか。

「外財根元記」の原本はどうなつたのか皆目見当がつかない。おそらく二度にわたる当鉱山大火の為に焼亡散逸したものであろう。

たゞ幸い当鉱山松原弥四郎氏宅に写本が保存せられていたことはまことに有難いことであつた。

松原家の御厚意に依つて、これを写しとり好学の士の机辺におくることが出来るのは此の上もない喜びである。

たゞ惜しむらくは、巻頭の部分と、その他文中数ケ所にわたり汚損の為、永久に文意不明となつている部分のあることである。

さて本文書題名の「外財」の解には左の諸説がある。

新村出先生の「辞苑」に依れば

げざい「下才」（名）かねほり。坑夫。

大言海（大槻文彦）では

げざい（名）下財。芸才。

（当字ナルベシ、詳カナラズ、地下ノ財宝ノ意トセムハイカヾ）

鉱山の語、かねほりノ異名。鉱夫

庭訓往来、四月

「芸才七座之店」

古抄「芸才、銅鉄掘ノ事ナリ」

嬉遊笑覧　附録

「古ク、金掘ル者ヲ、げざいト云ヘリ」

辞海（金田一京助）には

げざい（名）（中世語）いやしい工人

とあり「下財」、「下才」、「芸才」等のみにて「外財」の文字が見あたらないのである。

広文庫等も参照し度かつたのであるが、原稿発送を明日にひかえてそのひまがない。はなはだズルイ考えで恐縮であるが、諸先生から右に就いて御教示を得たいと考えている。

木浦地方の偽語に「げざい場」と云うのがあり、鉱山、土木工事場等をいうのである。

「あれは、げざい場で稼いだ女だ」と云われる事は、その女姓にとつてあまり名誉なことではないらしい。

「外財根元記」が信頼するに足る文献であることが実証されるならば、「げざい」の語も、もとは、きさま「貴様」等の語の如く、現在の意味よりもつと立派な使い方をされていた言葉であつたことになるのかも知れない。

「外財根元記」

（欠）根元者其昔大唐之憐王与（欠）金山於見出志給岩石土中於掘天黄金於求給与云我朝仁是於伝給仁聖武天皇之御宇日本国中仁勅使於下志給為天本朝之名山高山於尋給処仁伊豫国立川与云所仁黄金山於見出給天則都仁奏聞在気礼者帝於始奉公卿大臣御下向有天衣裳於着上下諸共大岩石土於掘給与云共流石馴給奴事御手仁叶勢給須依之下部下部於被レ召黄金之御（欠）於掘出天震襟於休女可レ与之奉勅（欠）無宣之依無レ例山掘之下部仁（欠）下志装束於給利天金掘与被召（欠）御金掘之面々抽天昼夜大岩石於掘穿漸久日数重利聖武天皇之御宇正月十六日大為成金之丸於掘出御蔵仁奉納者帝於奉始公卿天上人仁至迄御歓在天数多之御褒美於給利畢此時之勅定仁御蔵外之宝於掘出気流故外財登可登呼宣旨於下給依之外之財登者書也其後日本国中仁勅使於被天下黄金於見出忠節於可登之励綸旨於下給依之国々依利色替之石於見出我先登奉捧（欠）毎月毎月市於成持参須流石如（欠）上多利登云々是於渡唐之手本石仁（欠）召御改有仁無用之知多其内金銀（欠）鉄錫鉛水金金珀銀珀菊珀紺青白緑水精紅拆琉黄明盤白目登夫々仁名附給天外財之役頭仁下給宇石色数凡八百八色登云々、一正月十一日仁黄金山於見出給仁依天当代仁致迄十一日於山上利登号祝畢、一山上利之御幣者三段下利也山神宮並四門留之上仁立置也是山神之姿於表志給登云々一立川金山之御旗印者白衣仁御日之丸於御赦免也常仁立置申印者我家々之印於立置可申登之御綸旨於被下置畢一立川金山仁天聖武天皇之御宇正月十六日仁金之丸於掘出御蔵仁奉納依之毎月十六日仁山神祭礼於可登相勤勅定仁因天

無油断相勤流処仁中比源平之兵乱之時与利中絶而今者正五九月計於祭登云々

一床屋仁者忝茂天照太神宮八幡宮春日大明神毎月三度宛現シ給ン登之御誓也吹子ハ稲荷大明神守護シ給又金山光神於本尊ト而毎月八日仁祭礼於相勤可申登之御下シ文雖有登過シ平治之兵乱仁中絶シ当代者十一月八日計祭登也

一四ツ留登云者天照太神宮之天之岩戸於表シ四本之柱者四天王化粧木二本者日月於表シ目附木足下木者地神水神於形取是則天下泰平国土安穏天長地久登結留流者也鋪中之柱者一本仁一社宛之番神於立畢仍天穢不浄於秡能々可謹者也委細被託者但其心有仁仍天略之者也

一山礼之間数者化粧木之鼻依寸於取下者目附木之足下木之中依寸於取者也

一惣下財之役頭者伊豫国立川之住人川野太郎国久仁宣旨於被下三位之宦職於下シ給国久於被改金重登被召当代之仕手役之事也

一山先師登云者外財方之宝仁天諸山繁昌成時売買人於保元之古始天銀元仁取組給宇分頭登云者当代鎚頭之鼓也駄積頭登者当代跡向支配之役駄積頭之事也

一立川金山仁天外財人中江被下置所之宦職並御装束之次才但其山之諸役目等仁茂御装束仕乍一礼仕様仁御定被下置者也

一惣外財役頭仕手　三位中将被召下候

一御金掘師　四位少将被召下候

一鉢巻　烏帽子ノ代　長サ三尺七寸五分左折仁冠ク

一衣裳　直垂之代　長サ右同寸鋪中仁着須

一御金掘手子中比依跡向登云六位下仁被召下、鉢巻長サ三尺五寸右折仁冠ク衣裳長サ右同寸鋪中仁着

一御金吹師中比依大工登云四位中将仁被召下、鉢巻長サ三尺七寸五分右折仁冠ク衣裳長サ同寸床屋仁着

一御金吹手子当代前手子五位下仁被召下、鉢巻長サ三尺五寸五歩右折仁冠ク衣裳長サ同寸床屋之着物

一吹子師五位之下仁被召下、鉢巻長サ三尺三寸五歩右折仁冠ク衣裳長サ同寸床屋着

一焼釜師五位之下仁被召下、鉢巻長サ三尺三寸五歩右折仁冠ク衣裳長サ同寸床屋着

右外財人中江宦職並御奬於雖被下置上於奉恐当時者御装束代仁右之通鉢巻衣裳於用流也

末世之今仁致流迄山中仁是於御免有也其後古官新官之願仁上（欠）而御免札於申受外財方出勤而諸役勤流処仁源平兵乱以後中絶而御礼金計利於奉行上所仁後鳥羽院ノ御宇猶又中絶

而其後者身洗銀登名附其山々仁天御造酒於調江山中会合而祝納也是則御礼銀之心持也

一山師之根元者稼人数十年住取於究其日暮之小外財人タリト云共子孫仁至山一口之主ト成タル者ヲ代々山師ト云利則三位中将之官職於得ル也但古官新官ト云事有当時之古山ン新山ンの事也譬者外財一通之業於能久覚有輩之新山仁入来ル時者古山同前仁附合可致事也旅人稼仁入来時濡藁地有抜法国（欠）之有者時者勿論之事知人無時者其入込仁初而立寄タル所於頼入也附利稼居山之有限利其宿於親登頼亭主モ又我子同前仁下知スルを濡藁地登云者也

一外財方ニテハ山掘達者並留山古舗方口伝受タル者ヲ功者ト云也惣而舗中ノ囲者千本ノ柱ヨリ一寸ノ立頭ト申事大切也

一金山之記シ者龍宮界依涌出ト成利本朝ニテ者伊豫国野間郡立川之金山ヲ始ト而薩摩国川辺郡之内ノ金山也勿論七珍万宝ノ始ヲ一ト云忝モ天神地祇之利徳仁叶ル人山川ノ間ニ而鉱ヲ見出張ヲ得マリヲ云（但金ノカタ）其山ノ流ノ下ニテ川掘丁場ト云テ砂金ヲ陶上是ヲ取扱鉱ハ田土色柿地色砂粉其余者是ヲ略ス鏈多ク金気少キヲ中荷ト名附也但砕場ノ仕様並諸具ノ事者数多ニ依テ略之処也

一銀山之根元者豊後国大野郡木浦山於始登而佐渡国石見国対島国上県郡此等以上四ケ所銀山之始ト而誠ニ三宝神霊之不思議ヲ以テ先現シ諸人是ヲ知凡八百八色ノ鉱トス其内地鉱黒物鉱石金等者茶色紺色鳩色菜種子色豆粉色青指色胡麻ノ粉蠣柄田土砂銅白小白菜種子色白糊目鑢子白精堂麦石黒嶽ヨンジヤクニコウ目ト段々石色ヲ見分鉱上中下三段ニ取分ル者也銀吹屋之口伝多シ略之

一錫山之始リ者藩摩国阿多郡谷山豊後国大野郡天神山ヲ始ト而鉱者目無石金ヲ掘出砕場役ニ渡燒釜ニ掛テ煙者雲井ニ登千家ノ塩釜ノ風景モ斯ヤト計見江仁嶌夫依唐臼ニ而蝕砕セリ磨キ陶上床屋ニ掛吹上形ニ致シ見ルニ面ニ頭ル模様ハ大杉小杉牡丹菊花花鳥ノ足迄頭シ之ハ誠ニ外ノ宝ト申ズハ是也

一銅山之始リ者越前国南条郡讃岐国多渡郡日向国那珂郡石見国美濃郡菊ケ谷ノ銅山四ケ所ヲ始ト而〇者百重ヨンジヤク白鉱菜種子白赤白物迄外者略ス燒釜ニ懸テ吹屋ノ床ニ而荒吹直吹而板銅竿銅而仕出ス也床屋ノ所作者口伝多クニ依テ略ス扨吹申時者七五三縄ヲ張供物ヲ備穢不浄ヲ改別火ニ而吹申事勿論舗中ニ女人ノ入事堅忌也一鉄劔金砧銀砧菊砧紺青白銀青水精紅柄琉黄明盤白目等者猶又御年ニ至リ詳ニ目録ニ可相記者也

一新見立ノ山元ヲ才一トス山札者其時山奉行職依リ出所相

応ニ四方之間依百間ニ至迄其山ノ内トス其余モ奉行ノ了簡ニ依可出元山ノ稼者六十番也行掛リ乗振天井脇矢砂本三尋共ニ御免也元山上ニ有時者脇依水抜ヲ仕懸ル時者大切又者大々大切ヲ望申者有之迚モ元山依嫌申時者不相叶者也元山ノ望次第也惣冠キ大々大切ヲ望申時者数々ノ切山依五歩一又者十歩一ノ鍬ヲ大切山江歩一ヲ取者也大々大切ノ作法者八方乗振脇矢行掛百二十五番ノ稼ヲ可相勤者也

一諸山共ニ砕合切抜合格子ノ作法者正打階依鼓縄ヲ立頭打階ニ引渡結者也但抜戸ノ口伝略之下山走リニ切時者行掛リ廊下依二三所モ切掛抜戸前ニハ行掛切詰依天上ニ乗上リ抜鎚ヲ立ル者也上ハ山下リニ切時ハ鼻ヲ折切ニト東西ニ矢筈ニ切切詰依五六尺モ上ニ引上抜鎚ヲ立下山ヲ呼上ケ抜合可致者也若又西ノ山東ニ通ル事モ不叶東ノ山西ニ通事モ不叶時ハ其所ノ見分役ノ扱ヲ以テ登リ下リ提縄規ニ相究置両山主依云分仕時ハ抜合ノ所ニ正ノ打階ヲ入格子ヲ結見分ノ人数ノ名判ヲ記シ封印致置者也右格子取依互ニ引除キ二番砕合有切法モ但山ノ口事云時ハ此一巻ヲ開キ山師共ニ読聞セ埒明可申事

一烈シ合山規究メ様之事本鉉依三尋三尺開キ切込候得者規ハ無法也但待合規ハ大切山格子依二十尋切調置日数廿日待合セ不追付日限依過候者ハ心次第掘方可致者也但切山之儀者十五尋切調置日数十五日待合セ右同断也

一規ヲ背タル者ハ山方ヲ破タル科不レルニ軽ラ依一七日可レ為三通塞一依レ品候而者山奉行所依山首預置者也一横番切ノ作法切場之高サ三尺八寸ニ究天井砂本仁打階ヲ入先キ三尋ト相究切セ可申事也右之内何程切場栄候テモ取揚ル事ハ卑烈ノ沙汰也若打階依外ニ背タル時ハ本番ニ取上テ切方可致者也

一天下御法度之事鎖依切場栄ル時立為テ鉉ト山奉行見分ニテ鉉迦シ可致筈之処ニ稼之者鉉切落シ候ハバ為其科ト其鋪樋通リ中可追放事

一鋪盗人於露顕ニ者其山床四ツ留之前ニ棒縛ニ而三日三夜曝シ又辻ニ二三三夜曝シ其後朱鬢紅ニ而山中可為追放事

一征夷大将軍源頼朝公之宣旨ヲ象リ給イ而日本六十余州御下知ニ随国主地頭ヲ被定時モ外財方計リ者依往古被下置候御下シ文ノ通不相替可相勤土中ノ宝ヲ取上ル者我朝繁昌ノ基イ也為勅定之間山中之山法者直ニ先例之通可相守自今以後末世ニ至迄国主地頭之通達ニ者不能之条外財役頭可致下知トノ御免札目録被下置候一外財之根元記目録者伊豫国之住人川野太郎金重依九代孫川野次郎金久ガ二男ナリ

川野弾正大輔金重廻国而見改ル所豊後国大野郡木浦山ト三所ニ而銀山ヲ見出夫依今ニ至ル迄山繁昌長久也此金重外財方

江被下置候御下シ文御目録其時来ル木浦山ノ山先手鎚頭是ヲ伝ル者也当代日本国中ニ記目録沢山ニ雖有之外財根元之記録者他ノ山無之者也　惣勘状伝置畢

一山床根帳之事者其時之山奉行職依御請申置稼方可致筈也然共大切廿日切山十五日此日数休置稼方不致候得者山首ハ扮法也脇依獲取候而モ申分ノ然之法也但シ煙廻ト云ハ近山間ニ内又者四ツ留矢内依掘方致候而モ申分無也法也

一四ツ留結様之事拙通五尺一寸依五尺五寸迄也尤大々大切者寸法無究惣而目附木依一寸上上リニ而四枚目ヲ繋山ト云目附木依五分上リモ有其処ノ見合ニ有口伝但シ見上ゲ之山ナラバ五分八分モ前ニ傾ケ見下シノ山者直ク立結候也

一天上矢鼻一尺二寸出ス二十五本者二十五ノ菩薩ノ星ニ表シ又二十一ノ時モ二十五社表ス也

一脇矢十六本者十六羅漢ト表ス也

一化粧木長サ八尺二本者日月ニ表ス也但シ押木鼻者日輪月輪ト表ス也

一矢張者足下羽内ニ一寸開也

一目附鑿手之柱者天照皇太神宮同鎚手之柱者春日大明神ヲ表ス也

一二番之山鑿手ノ柱者八幡大菩薩同鎚手ノ柱者祇園牛頭天王ヲ表ス也

一二番之山鑿手ノ柱者不動明王同鎚手之柱ハ稲荷大明神ヲ表ス也

一四番ノ山繋山鑿手ノ柱ハ熱田大明神鎚手ノ柱者諏訪大明神ヲ表ス惣而鋪内ヲ守護シ給御神々

広田大明神	（欠）
鹿島大明神	比野大明神
貴船大明神	加茂大明神
大原大明神	平野大明神
小比叡大明神	聖真子大明神
八王子大明神	住吉大明神
擬部大明神	三山大明神
（欠）	江文大明神
	松尾大明神
	大比叡大明神
	客人大明神
	赤山大明神
	兵主大明神

（以上）